～平成 28 年度　第１回「横浜市地域公共交通会議」議事録～	
日時	平成 28 年 4 月 12 日(火)午後 4 時 30 分から午後 6 時 00 分
場所	ヨコハマジャスト１号館８階　１号会議室
開催形態	公開(傍聴 14 名)
議題	(1)協議・報告事項　　事業計画の変更(旭区コミュニティバス「四季めぐり号」)等について（資料１） (2)報告事項　　ア　年末年始の運行について（資料２） イ　実証運行地区の実施状況について（資料３） ①　金沢区片吹地区 ②　泉区緑園地区 ③　緑区武蔵中山台地区 ウ　その他の取組地区について（資料４） (3)その他　　高齢者等移動支援バスモデル事業（資料５）
議事	**1. 協議・報告事項** **資料１　旭区コミュニティバス「四季めぐり号」の事業計画の変更等について** ［委員］　アンケート調査結果で、「便利になる」という回答があまり多くないように思います。アンケートはどのような人に配布したのですか、回収は利用者のみですか?　また、定期的に利用する人と時々利用する人の比率はどの位ですか? →［事務局］　配布は運行地区を対象に全戸配布とし、利用者を含めた回収率は 37%でした。利用頻度は月に 1～２回程度の利用が 44%、週に 1～２回程度の利用が 15.8%、月に 3 程度～４回程度が 14%で、この３つの合計が全体の 3/4 を占めています。 →［委員長］　他にご質問、ご意見も無いようですし、協議事項でございますので審議に移させていただきたいと思いますが、この件につきましてご承認ということでよろしいでしょうか。ありがとうございます。この件については承認とさせていただきます。 **2. 報告事項** **資料２　ア　年末年始の運行について** **資料３　イ　実証運行地区の実施状況について** ［委員］　片吹地区と緑園地区は、目標乗車人数と実際の利用者数が、かけ離れていますが、目標に到達しない場合は地域交通サポート事業として継続しないなどのルールはあるのですか。 →［事務局］　時刻表やバス停の位置の変更などにより利用しやすい環境を変えながら最終的に運行事業者が本格運行の可否を判断します。 ［委員］　特に緑園地区は目標に対してかなり低いことが心配で、何とかして乗ってもらうか、コストを下げるかをしなければならないと思いますが、何が課題だと思いますか。 実際乗らない理由は何なのかを検証しないといけないという気がします。 →［事務局］　現在、アンケート調査の実施中ですが、２社での運行は初めてであり、乗り方、行き先が分からないなどの問題が考えられます。実証運行の結果を検証して事業に反映

	できるようにしたいと思います。 ［委員］　「四季めぐり号」はどのようにして採算ベースなどの問題をクリアーしたのですか。 →［四季めぐり号運行事業者］　収支は大変ですが、安全運行、定時運行を地域の後押しで行っています。 →［事務局］　実証運行中に、昼間の利用者が多い、二俣川駅方面への利用が多いなどを考慮して変更改善しており、またフリー降車なども取り入れています。本格運行後も地域の方々が継続的に集まり、啓発活動などの検討が行われています。 ［委員］　本格運行中の９地区は採算ベースにあっているのですか。採算割れしているところはどのような考えで進めていかれるのですか。 →［事務局］　公共交通であるので、始めたものは出来るだけ継続する姿勢ですが、どうしても難しいものについては考える必要があります。地域交通サポート事業では市が助成することは考えていませんが、公共交通機関の空白地帯については、今後どうにかしなければならないと考えています。 ［委員］　自治体によっては収入と費用の差額を補助しているところもありますが、横浜市は補助しないという考えですか。 →［事務局］　市内のバス交通で赤字補填の事業は別途ありますが、地域交通サポート事業は、公共の資金を投入しないというのがこの事業の趣旨となっています。 ［委員］　どうしても採算ベースに届かない場合、運賃 300 円のコミュニティバスとする考えもあるのですか。また、「四季めぐり号」の利用が最近 100 人を割っていますが、これは一過性のものですか。 →［事務局］　これまで実証運行はすべて本格運行に至っていて、今回初めてのケースですので、実証運行やアンケートの結果を見ながら今後検討していくことになります。次に、四季めぐり号の利用者数は、冬季に外出が少なく、夏季に多いということなのですが、減少傾向が見られますので、企業の支援などによる方策を考えていきたいと思っています。 **3. その他** **資料５　高齢者等移動支援バスモデル事業** ［委員］　車両は事業用の緑ナンバーですか。また横浜市が運行経費を助成される初のケースですか。 →［事務局］　車両は白ナンバーです。地域の皆様が助け合いで運行することを前提として考えています。経費助成については、新しい取組でありどのような問題課題があるか分からないので、実証運行期間中は経費助成を考えています。 ［委員］　実証運行が終わった後はどうするのですか。 →［事務局］　実証運行していくなかで、課題はたくさん出ると思われ、検討していくなかで考えていきます。 ［委員］　新たな取組となっていることから、他の地区からも要望が出たときに論理的な説明が必要となります。また目標を設定したときにはどこまで出来るのかということに対して常に継続的に見直しをしていくことが必要だと思います。

	→［事務局］　これが標準モデルだとは考えていません。模索中の一つの形態だと思っております。 ［委員］　この取組がこれからの横浜市の郊外地域のあり方、都市全体のあり方としてつながってくると考えられます。大幅な人口減少は無いと思いますが、空家など街のかたちが変わっていく中で、バス、或いは乗合いの交通も同時に考えていく必要があります。 ［委員］　運送事業者が介在せずに地域の方々だけで取り組んでいるところはありますが、採算的な面で白ナンバーで続けられるのかどうか、間違った方向に行かないように関係機関との連携が必要だと思います。 ［委員］　主に高齢者等の移動支援を行うものとしており、要介護者等で無い方を対象としていると思いますが、介護タクシーなどとの違いをどう説明されるのですか。 →［事務局］　買い物できないなどの高齢者が外出する機会を与えることが目的でございます。 ［委員長］報告事項の中でたくさんご意見いただきましたけれども、今後事業を進めて行く中で踏まえさせていただきます。 以上